

Ⅱ 国際社会の先駆けとなる健康長寿社会の実現

ジャパン・キャンサーリサーチ・プロジェクト

文科省、厚労省、経産省の有機的連携体制による、がん研究の一体的推進

がん対策推進基本計画(平成24年6月閣議決定)に基づき策定される「がん研究10か年戦略(仮称)」に踏まえ、関係省庁の所管する研究関連事業の有機的連携のもと、がんの本態解明等に係る基礎研究から実用化に向けた研究まで一体的に推進する。

【2015年度までの達成目標】

- 新規抗がん剤の有望シーズを10種取得
- 早期診断バイオマーカー及び免疫治療予測マーカー5種取得
- がんによる死亡率を20%減少させる
(平成17年の75歳未満の年齢調整死亡率に比べて
平成27年に20%減少させる)

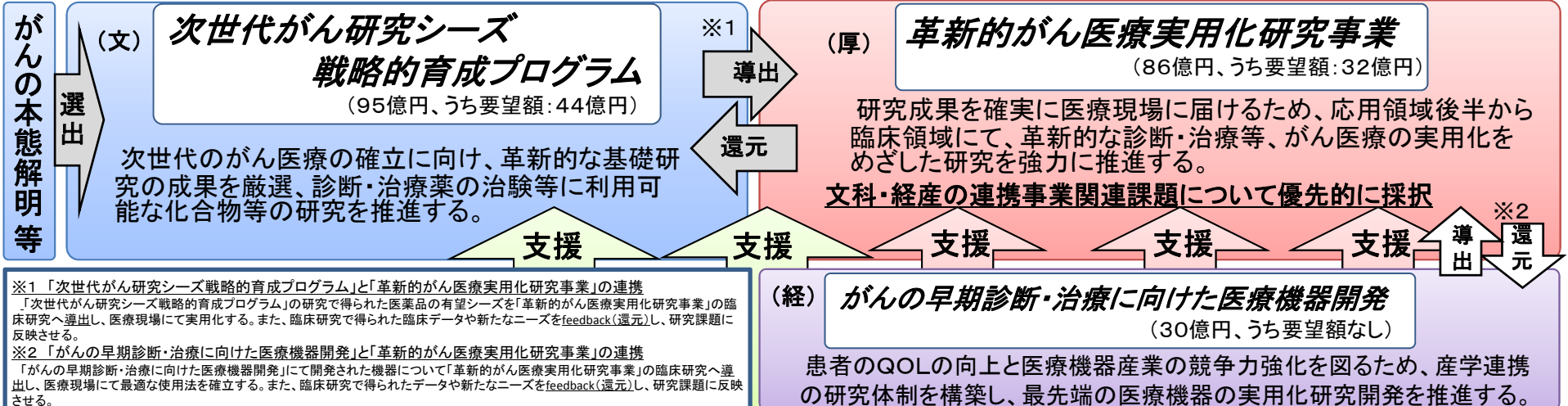
【2020年頃までの達成目標】

- 5年以内に日本発の革新的ながん治療薬の創出に
向けた10種類以上の治験への導出
- 小児がん、難治性がん、希少がん等に関して、未承認薬・適応外薬を含む治療薬の実用化に向けた5種類以上の治験への導出
- いわゆるドラッグ・ラグ、デバイス・ラグの解消
- 高齢者のがんに対する標準治療の確立(ガイドラインの作成)

基礎領域

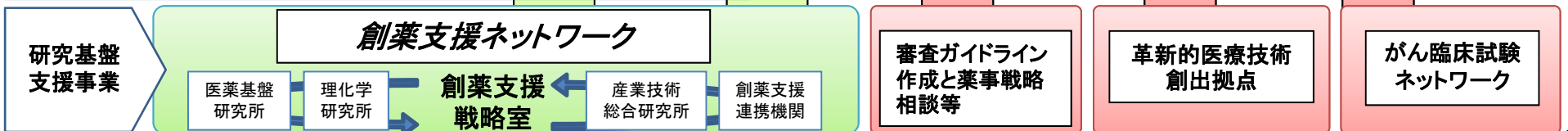
応用領域

臨床領域



※1 「次世代がん研究シーズ戦略的育成プログラム」と「革新的がん医療実用化研究事業」の連携
「次世代がん研究シーズ戦略的育成プログラム」の研究で得られた医薬品の有望シーズを「革新的がん医療実用化研究事業」の臨床研究へ導出し、医療現場にて実用化する。また、臨床研究で得られた臨床データや新たなニーズをfeedback(還元)し、研究課題に反映させる。

※2 「がんの早期診断・治療に向けた医療機器開発」と「革新的がん医療実用化研究事業」の連携
「がんの早期診断・治療に向けた医療機器開発」にて開発された機器について「革新的がん医療実用化研究事業」の臨床研究へ導出し、医療現場にて最適な使用法を確立する。また、臨床研究で得られたデータや新たなニーズをfeedback(還元)し、研究課題に反映させる。



各領域(基礎～臨床領域)における若手研究者及び技術者の育成(国際交流)等

アクションプラン対象施策の具体例

Ⅲ 世界に先駆けた次世代インフラの整備

効果的かつ効率的なインフラ維持管理・更新の実現

国交省、総務省、文科省、経産省、農水省により、センサー、ロボット、非破壊検査技術、新材料技術等を活用した高度で効果的なインフラ維持管理・更新技術の開発を一体的に推進する。

技術開発成果の国際標準化及び国際展開を図る。

- 2020年までにインフラの耐久性能評価技術の開発
- 2030年までにインフラの補修・更新技術の普及及び耐久性向上技術の開発

